



石原橋下の釣人 Fishing under the Ishihara bridge ...

© photo by Isao Yoshida

## 飯能ロータリークラブ会報

### 会長あいさつ

第五十九代会長 矢島高明



伝統と歴史の、飯能ロータリークラブ第59代会長を仰せつかりたいへん光栄であり、その重責を感じております。入会19年目を迎え、こうして会長を務めさせていただくことになり、ロータリークラブの魅力や素晴らしさを広く多くの方へ伝えて参ります。会員の皆様には、これからも変わらぬご指導、ご理解・ご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

2022-2023 RI 会長ジェニファーE・ジョーンズ氏のテーマは、「イマジンロータリー」です。イマジンとは想像するという意味、「イマジンロータリー」とは、会員一人一人、そしてクラブ全体として、同じ時間を与えられていることについてその時間をどう考え選択するか、如何に明るい未来を想像し、そのための活動を実践することが良いことなのかと述べております。RI 会長は、「会員は夢を実現するために行動し、クラブの魅力を最大限に味わえる場としてのロータリーを思い描き、互いのつながりを深めることによって世界に変化をもたらすパートナーシップを築こう」と呼び掛けています。又、ロータリーの「多様性・公平さ・開放性( DEI )」を最優先し、女性会員や40才未満の会員を増やすには、先ずリーダー陣がこれを実践し、そのメンバー構成に反映させていくことが必要だとも述べております。

2022-2023 第2570地区ガバナー村田貴紀氏のテーマは、「地域と世界でつながる力を磨き奉仕を実践しよう」です。5年後、10年後、15年後、現在所属のクラブ会員は増加していますか？時代に即した魅力あるクラブになっていますか？と問われ、そのためにRIのテーマ「イマジンロータリー」を実践して欲しいと呼び掛けております。

2022-2023 飯能ロータリークラブテーマは、「今こそロータリーの魅力を」です。日本のロータリーの創始者であり、東京ロータリークラブ初代会長を務められました米山梅吉氏は「ロータリーの例会は人生の道場」と語っています。週に一度の例会出席はロータリアンとして最も基本的な責務であり、又、多くの仲間をつくるきっかけの場でもあります。例会を通じて多くの仲間ができますと、お互い切磋琢磨し、自己改善に務めることで、ロータリーの説く奉仕の心が、しだいに高まります。人の役に立つ喜びを感じ、知らず知らずのうちに他に対する思いやりの心や、助け合いの心が深くなり、相手の喜びや悲しみがよくわかる人間性の成長こそ人生の道場で学ぶ「ロータリーの魅力」だと考えます。どうか楽しく、ためになる例会の出席をよろしくお願い致します。

世界200以上の国や地域で3万6千ものクラブが存在し、会員数約120万人の国際的奉仕団体が「ロータリークラブ」です。仕事でもプライベートでも信頼しあえる「仲間」と共に、親睦と奉仕を中心とした楽しく、有意義な活動を行いましょ。

今年度も当クラブとしては、ポリオ撲滅、水問題、識字率向上のための支援を行い、又、会員の寄付をもとにした米山記念奨学生への支援、ロータリー財団への寄付も引き続き行って参ります。

すでに2年以上世界中に蔓延している新型コロナウイルスの感染拡大により、ロータリー活動も制限されましたが、少しずつ治まっておりますので、従来の形に可能な限り戻して参りたいと考えます。幹事・SAA・理事・各委員長の方々と密に連携を図り、会員の皆様が親睦を深めることで絆を深め、魅力あるロータリーライフをおくれるよう努めて参ります。

会員皆様のご理解ご協力をよろしくお願い致します。

# 任期を終了して

第五十八代会長 高橋 弘



会長方針により安全第一を主眼に掲げ例会数を抑制した今年度の年度計画に対しては、賛否両論がありました(クラブ戦略計画委員会/プログラム委員会)。しかし、コロナ禍の最中、さしたるトラブルもなく、当初の会員数を維持したまま(会員〔会員増強・会員選考・職業分類〕委員会)、ほぼ計画どおりに事業を終了できること(クラブ奉仕委員会)は、「従来にも増して心をかよわせ、相互に健康と生活を守るための工夫に注力すること」とした最重要方針に対する会員各位の心温まるご協力とご支援の賜物にほかならず、心から感謝申し上げます。

さて、今年度の主な活動を振り返りますと、

- 飯能市地区行政センター(13か所)に対する検温消毒器の寄贈(社会奉仕委員会)
- 公式ホームページの新規立ち上げ、会報及び周年記念誌等の電子情報化、フェイスブックサイトの開設(公共イメージ〔会報・広報、雑誌〕委員会)
- IM開催に対するYouTube配信の活用(全員登録の維持/ガバナー補佐の補助)
- Zoomによる例会開催および4つのテスト等への英語動画の採用(職業奉仕委員会)
- 駿河台大学の箱根駅伝への参加支援(国際奉仕委員会)
- 当クラブのゆるキャラ『笑顔の紳士君』(へへへのしんし〔吉田行男会員作〕)の製作
- 特別寄付の受付(財団・米山委員会/5件)
- ロータリークラブ杯 少年野球大会の開催(青少年奉仕委員会・社会奉仕委員会)
- 日高クラブとの協働による3年振りに再開した飯能新緑ツーデーマーチへの参加・同ペットボトル飲料水7000本の寄贈と受付事務への協力および入間クラブほか複数クラブとの協働による乳がん検診車の寄贈への協力(ロータリー奉仕デー/環境保全委員会・社会奉仕委員会)
- 入会后3年未満会員への研修の実施(ロータリー情報委員会)
- 飯能市環境学習用品給付事業への寄贈(環境保全委員会)

など多岐にわたる活動を挙げることはできますが、コロナ禍の影響でメイクアップの機会も少なかったこと(出席向上委員会)や、時間をかけて計画していただいた親睦旅行を中止せざるを得なかったこと(親睦活動委員会)などは心残りです。

ところで、西武鉄道では、発想を転換して、他社が保有する中古の新性能車両を購入することにより旧性能車両を早期に置き換える方針が発表されました。大手私鉄では恐らく初めての試みであり大きな話題となっているようです。今回の発想転換は、持続可能でよりよい世界を目指すSDGsの考え方もも適合的と思われ、従来のような限られた範囲の数字による評価ではなく、環境その他への配慮をも加味して評価するESG投資等の原動力となる可能性をも感じさせます。西武鉄道は、かつて、時代のニーズに適う4ドア車両を導入しようとした際に、電車は3ドアまでであるべきだとする伝統に阻まれた経験も有しているようです。世界は今、そして我国にあっても、限られた価値観に基づく競い合いではなく、多様な価値観を認め共に暮らし共に生きる共生社会の実現へと大きく舵を切ろうとしています。身近な西武鉄道の発想転換には、私たちロータリークラブの今後にとっても、大いに学ぶべきヒントの数々が隠されているように思われます。

おわりに、困難を乗り越えるために力を合わせていただいた全ての皆様に重ねて感謝申し上げます、任期終了の挨拶といたします。